

## < 報告事項1 >

# 事業報告

自 2016年7月 1日

至 2017年6月30日

## 1. 事業の概況

一般社団法人日本バレーボールリーグ機構(以下「Vリーグ機構」という)の今(2016/17)シーズンは、バレーボールの国内リーグ発足50周年の記念イヤーとして、「大運動会」、「Vリーグオールスターゲーム」などの50周年記念イベントの開催や「ゴールデンセット」の採用や「チャレンジシステム」の導入などの新たな取組等、2020年の東京オリンピック・パラリンピックやこれからの50年に向けた強化やバレーボール人気の拡大に繋げるべく充実した一年となりました。

以下、第12期事業年度の概況を取り纏め報告します。

2016年9月16日に開催した定時社員総会終了の時をもって、全理事が任期満了により退任し、新たに12期～13期の理事14名を選任しました。重任した理事及び新たに選出された理事により開催した第12期第1回理事会において嶋岡健治会長、佐藤直司副会長を再任しました。また、監事については、1名を理事に選任したことにより、新たに1名を選任しました。

尚、佐藤直司副会長は自己都合により、2017年1月にて副会長を、3月末にて理事を辞任しました。後任の副会長には1月25日の第5回理事会にて三好徹理事を選任しました。従って、4月以降は理事13名となりました。

また、社員総会前の2016年9月1日の理事会において、常務会の設置並びに常務会運営規程が承認され、社員総会後の9月17日より施行されました。これは、多くの案件が全て理事会に上程され、意思決定にスピード感がないとの問題意識から、代表理事会長、副会長、事務局長によって構成される「常務会」を設置することで、大幅に権限を委譲し、常務会にて決議した案件は、理事会には報告するのみの形に変更しました。その運営方法については「常務会運営規程」の定めるところとなります。

V・プレミアリーグ男子大会は8チームの参加により、2016年10月22日の大阪市中央体育館(大阪市港区)にて、女子大会は8チームの参加により、2016年10月29日に東京体育館(東京都渋谷区)にて開幕しました。3回戦総当りによるV・レギュラーラウンドでは、白熱した戦いが続き、上位6チームによるファイナル6への切符は男女とも最終日までつれ込む混戦となり、その後V・ファイナルステージ(ファイナル6、ファイナル3、ファイナル)を開催し、女子は2016年3月17-18日、男子は3月18-19日にそれぞれファイナル(決勝戦)を戦いました。女子はNECレッドロケッツが2シーズンぶり6回目の優勝、男子は東レアローズが8シーズンぶり3回目の優勝を飾り閉幕しました。

V・チャレンジリーグIは男女各8チームが3回戦総当りのリーグ戦を行い、女子はデンソーエアリービーズが、男子は大分三好ヴァイセアドラーが優勝しました。V・チャレンジリーグIIは新たに準加盟男女各1チームが加わり(男子…長野GaRons、女子…大阪スーペリアーズ)、女子は6チーム(社員2チーム、準加盟4チーム)と男子は8チーム(社員5チーム、準加盟3チーム)の3回戦総当りのリーグ戦を行い、女子はトヨタ自動車ヴァルキューレが2年連続の優勝を飾り、男子は東京ヴェルディが優勝しました。

その結果を受けて、V・チャレンジリーグ入替戦(V・チャレンジリーグIの7位、8位/V・チャレンジリーグIIの1位、2位)が、2017年3月4-5日に、パナソニックアリーナ(大阪府枚方市)にて行われ、男

子は2チーム共V・チャレンジリーグ I が勝利し入替とはならなかったが、女子はV・チャレンジIIのトヨタ自動車ヴァルキューレが勝利し、4月12日の第8回理事会の承認を経てV・チャレンジリーグ I への昇格が決定しました。

また、V・チャレンジマッチ(V・プレミアリーグの7位・8位/V・チャレンジリーグ I の1位・2位入替戦)が、2017年3月12-13日に、大和スポーツセンター(神奈川県大和市)にて行われ、男子は2チーム共・プレミアリーグが勝利し残留を決めましたが、女子は2チーム共V・チャレンジリーグ I が勝利し、4月12日の第8回理事会の承認を経て、デンソーエアリービーズ、上尾メディックス2チームのV・プレミアリーグ昇格が決定しました。

今シーズンより、スポーツのライブストリーミングサービス:DAZN(ダ・ゾーン)と5年間のパートナー契約を締結し、V・プレミアリーグ男女全試合及びV・チャレンジリーグの週1大会をライブ中継しました。生中継による露出拡大により、ファンの皆様との接点が増やせたのではないかと考えています。また、Vリーグ独自の「チャレンジシステム」を開発し、ボールのイン・アウト、ブロッカーのボールタッチに関するオリジナルルールのビデオ判定を導入しました。バレーボールの競技特性は失わず、より高精度のレフェリングと競技レベルの向上を目指しています。加えてファイナル3及びファイナルをこれまでの1試合制から2戦方式に変更し、1勝1敗となった場合は25点制の1セットマッチで勝敗を決める「ゴールデンセット」を採用しました。男子のファイナル3にてこの方式が初めて行われ、大きな盛り上がりを見せました。更に、タラフレックス、カラーコートやLED電飾看板の導入・拡大による会場の見栄えや盛り上げ向上に取り組んでいます。

50周年記念事業としては、開幕前にファンの皆様への感謝のイベントとして、全リーグ全チームが参加する「大運動会」を開催しました。参加選手も試合とは異なる表情を見せ、皆様にも楽しんでいただけたと思います。また、ファイナル翌週には15年ぶりとなる「Vリーグオールスターゲーム」を開催しました。ファン投票やVリーグ推薦で選ばれたスター選手たちの競演やパフォーマンスは皆様の記憶に残ったものと思います。

Vリーグ機構の活動成果を経営数値で見ますと、DAZNとの契約による放映料・制作協力費を主体に、50周年も含めた協賛金や50周年イベントでの入場料収入により大幅に増加し、収入総額は878,063千円(対前期341,468千円増…163.6%)となりました。また費用面では、チャレンジシステム、タラフレックス、電飾看板等の導入やカラーコートの拡大及び50周年記念事業、更には翌年以降の新たな取組への準備などに費用を投入したことにより、費用総額は825,440千円(対前期314,886千円増…161.7%)となりました。経常利益は50,040千円(対前期24,416千円増)、当期純利益は32,652千円(対前期14,337千円増)の大幅増収増益となりました。

以下、事業内容を、詳述致します。

## 2. 事業内容

### (1) V・プレミアリーグ

2016/17シーズンは、昨シーズン同様、女子大会・男子大会ともに参加8チームによる3回戦総当たりリーグ戦のV・レギュラーラウンドとV・レギュラーラウンド上位6チームによるV・ファイナルステージ(ファイナル6、ファイナル3、ファイナル)の競技形式で、レギュラーラウンド84試合、ファイナルステージ19試合の計103試合、男女合計で206試合を延べ65会場(女子31会場、男子34会場)にて開催しました。

観戦入場者数を見ると、女子大会・男子大会合計で351,430人(対前年13,995人増)、女子大会は

178,848 人(対前年 8,846 人増)、男子大会は 172,582 人(対前年 5,149 人増)、となりました。1 開催日平均では、女子がVリーグ歴代 2 位の 3,374 人(対前年 41 人増)、男子が 2,976 人(対前年 14 人減)でした。

## (2)V・チャレンジリーグ

2016/17 シーズンのV・チャレンジリーグ I は女子大会・男子大会ともに参加 8 チームによる 3 回戦総当たりリーグ戦とし女子・男子各 84 試合の合計 168 試合を延べ 42 会場(女子 22 会場、男子 20 会場)にて開催しました。

観戦入場者数を見ると、男女合計で 66,815 人(対前年 9,160 人減)、女子大会は 39,291 人(対前年 6,751 人減)、男子大会は 27,524 人(対前年 2,409 人減)、となりました。1 開催日平均では、女子が 936 人(対前年 160 人減)、男子が 688 人(対前年 60 人減)でした。

V・チャレンジリーグ II は、男女とも準加盟が 1 チームずつ加わり、女子大会が参加 6 チーム(内準加盟 4 チーム)による 3 回戦総当たりリーグ戦、男子大会が参加 8 チーム(内準加盟 3 チーム)による 3 回戦総当たりリーグ戦として、女子 45 試合、男子 84 試合の合計 129 試合を延べ 32 会場(女子 12 会場、男子 20 会場)にて開催しました。

観戦入場者数を見ると、男女合計で 40,669 人(対前年 4,587 人増)、女子大会は 23,148 人(対前年 1,742 人増)、男子大会は 17,521 人(対前年 2,845 人増)となりました。1 開催日平均では、女子が 965 人(対前年 8 人減)、男子が 473 人(対前年 138 人減)でした。

\*テレビ放送に関しては、DAZNにより男女全試合(206 試合)がライブ配信され、加えてV・チャレンジリーグ1(男女 48 試合)、V・チャレンジリーグ II(男女 9 試合)、V・チャレンジマッチ(男女全 8 試合)、V・チャレンジリーグ入替戦(男女全 8 試合)、Vリーグオールスターゲーム(男女全 4 試合)も生中継されました。また、BS(NHK BS-1、BSフジ)、CS(GAORA)、地上波(ローカル放送)のテレビ放送も昨年同様放送されました。女子大会・男子大会ともに視聴者数は大幅に伸張しました。

## (3)その他

### ①V・サマーリーグ女子大会

2016 年 7 月 1 日～3 日、V・プレミアリーグ(8 チーム)、V・チャレンジリーグ(14 チーム…含む準加盟 4)の計 22 チームが参加して、いしかわ総合スポーツセンター(石川県金沢市)で開催しました。当初は前年同様東西2ヶ所で開催予定でしたが、2016 年 4 月 14 日に発生した熊本地震の影響を受け、鹿児島県鹿屋市での西部大会を中止し、石川県金沢市で東西合同での開催となりました。優勝は上尾メディックス、入場者数は3日間で 5,733 名でした。

若手選手の強化育成を主な目的として昭和 56 年から毎年開催していますが、昨シーズンから創設された「フレッシュスター賞」としてプレミア/チャレンジ I、II 各リーグから 1 名ずつが選ばれました。また、優秀な成績を収め、今後より一層の活躍を期待して会長特別賞が準加盟のブレス浜松に贈られました。

また、熊本地震からの復興を願いチームによる本大会にて募金活動を行いました。募金総額は、634,880 円となり、熊本県バレーボール協会へお渡しし、復興支援に役立てていただきます。多くの方のご支援に対し、厚く御礼申し上げます。

## ②2016 アジアクラブ選手権

2016 アジアクラブ選手権大会は、男子は8月23日～31日にネーपीドー／ミャンマー(参加15チーム)にて、女子は9月3日～11日にビナン／フィリピン(参加12チーム)にて開催され、男子は豊田合成トレフェルサ、女子はNECレッドロケッツが日本代表として派遣されました。試合は豊田合成トレフェルサが3位、NECレッドロケッツは優勝しアジア代表として世界クラブ出場権を確保して大会を終了しました。

## ③FIVB世界クラブ女子選手権 2017 神戸大会サロンパスカップ

2017年5月9日～14日 国際バレーボール連盟(FIVB)主催の世界クラブ女子選手権神戸大会サロンパスカップが神戸総合運動公園グリーンアリーナ神戸(兵庫県神戸市)で開催され、8チームが参加し、トルコのチームが優勝しました。日本からは2016 アジアクラブ選手権優勝のNECレッドロケッツと開催国選出の久光製薬スプリングスの2チームが参加しました。

## (4)50周年記念事業

2016/17シーズンはVリーグの前身の全日本バレーボール選抜男女リーグの創設(1967年5月)から数えて50回目の記念すべきシーズンとなりました。Vリーグ機構では50周年を機に、より多くの皆様にバレーボールとVリーグの素晴らしさを知っていただき、その歴史を次の50年に繋げていくべく、「V50周年イベント委員会」を発足し、様々な事業を行いました。本事業には日本バレーボール協会に多大な協賛をいただきました。

### ①50周年記念事業

#### □50周年記念イベント(詳細後述)

2016年9月にVリーグ選手が参加する『Vリーグ大運動会』を開催したほか、ファイナル終了翌週の2017年3月24日に年間表彰式である『V. LEAGUE AWARD』、そして、3月25日、26日には『Vリーグオールスター』を15年ぶりに復活し、多数のファンの皆様と共にイベントを盛り上げました。

#### □50周年特設サイトの開設

50周年特設サイトを開設し、「50周年の歴史を振り返るコンテンツ」や「50周年イベントの紹介」、そして、50周年サイト独自の「対談企画」やファン参加型の「バレーボール検定」など、様々なコンテンツを提供いたしました。

#### □50周年アンバサダー

50周年となる2016/17Vリーグや記念イベントをファンの皆様に伝え、これからのバレーボールの普及・発展に繋げていただく「50周年アンバサダー」に、Vリーグや全日本で活躍した大林素子氏、山本隆弘氏に就任いただき、Vリーグの魅力発信にご協力いただきました。

#### □コラボレーション企画

テレビ放送開始から50年を迎える『ウルトラマンシリーズ』とコラボレーションし、様々なコラボイベントを実施したほか、アパレルブランドである『Laundry(株式会社KSプランニング)』とコラボレーションし、オリジナルTシャツを販売するなど、50周年をきっかけとした様々なコラボレーションを行いました。

□50周年アニバーサリーパートナー

50周年記念事業を盛り上げる為に、『50周年アニバーサリーパートナー』として、多くの協賛者様(13社)のご協力をいただきました。

□その他

Vリーグテーマソングを50周年記念バージョンとしてリアレンジしての発売や50周年記念グッズの制作・販売を行いました。また、2016/17シーズン終了後には、50周年記念誌も制作・発行しました。

◆50周年記念誌

1967年5月、第1回全日本バレーボール選抜男女リーグの名称で幕を開けたバレーボール国内リーグから50周年の節目を迎えた今、その歴史を振り返り、未来を展望する記念誌を制作しました。多くの方々にご覧いただき、これからの50年も笑顔でバレーボールを楽しんでいただきたいと思います。

②Vリーグ大運動会

2016年9月10日(土)駒沢オリンピック公園総合運動場体育館(東京都世田谷区)にてVリーグ大運動会が行われました。初の試みとなるこの「大運動会」は、「ファンの方々と触れ合えるイベントを行いたい」との選手達の発案により開催されました。

大運動会には、各リーグの全46チームから約130名の選手が参加、普段はコートを挟んで対戦する選手たちが出身地毎に4チームに分かれ、大運動会ならではの「綱引き」や「大玉ころがし」などの計9競技で対戦しました。一部の競技ではファンの方にも参加してもらい選手と一緒に楽しんでいただきました。5時間半に及ぶ大運動会は、2,318名の満員のお客様の大歓声に沸き、大盛況の内に幕を閉じました。

③V. LEAGUE AWARD

50周年記念イベントとして、シーズン年間表彰式となるV. LEAGUE AWARDを2017年3月24日(金)にロイヤルパークホテル(東京都中央区日本橋)で来賓、選手・スタッフ、プレス関係者合わせて307名の出席のもと開催しました。

V. LEAGUE AWARDでは今シーズンの個人成績に対する表彰に加え、50周年を機に後世に残る記念すべき表彰として日本史上に残る名将である故・松平康隆氏の功績を称えた「松平康隆賞」、DAZN視聴者の投票により今シーズン最も印象に残るプレーに贈られる「DAZN賞」を制定し表彰しました。また、前身の日本リーグの創設から50年間の長きに亘り、Vリーグの運営にご尽力いただいた、47都道府県のバレーボール協会の皆様に感謝の意を込めて感謝状の贈呈を行いました。

④2016/17Vリーグオールスターゲーム

国内リーグ50周年を記念して「2016/17Vリーグオールスターゲーム」を深谷市総合体育館(埼玉県深谷市)で15年ぶりに復活、開催しました。2017年3月25日(土)に女子大会、26日(日)に男子大会を、それぞれ第1試合がV・チャレンジリーグI・II、第2試合がV・プレミアリーグのオールスターゲームとして行いました。V・プレミアリーグ、V・チャレンジリーグ共に、オールスタースタンプラリーファン投票によって選出された14名+Vリーグ機構推薦選手14名の計28名の選手をAWA

RDにおけるチーム分け抽選会にて2チームに編成しました。2日間の入場者数は5,515名で、大いに盛り上がりました。このVリーグオールスターゲームは今後も毎年継続開催の予定です。

## (5)広報／プロモーション活動

### ①2016/17V・プレミアリーグ開幕記者会見

V・プレミアリーグの開幕に先立つ記者会見を、男女別に開催しました。男子は10月11日に大阪なんばパークス(一般来場者600名)にて、女子は10月17日に東京・池袋サンシャインシティ(一般来場者700名)にて、それぞれV・プレミアリーグ8チーム監督、キャプテン、注目選手の登壇の下、多くのファンや観客を集めて行われました。

### ②2016/17Vリーグオフィシャルサポーター

2016/17Vリーグオフィシャルサポーターには歌手で女優の上野優華さんを起用しました。上野さんの歌う『やくそく』がオフィシャルソングとしてVリーグの会場BGMで流れた他、各大会に登場いただき、ライブパフォーマンスなどで会場を盛り上げていただきました。

### ③オフィシャルマスコットキャラクター『ブイリー』誕生

Vリーグでは初めてのオフィシャルマスコットキャラクターを制作し、2016/17V・プレミアリーグのファイナルにてお披露目しました。名前はファンからの公募により『ブイリー』と名づけ、今後は大会会場やイベント等で活躍する予定です。

## (6)広告関連

バレーボール国内リーグ創設50周年を機に、より多くの方々にバレーボールとVリーグを知っていただくべく、広告活動を積極的に行い、認知度向上に努めました。

#### □代々木駅電飾看板

年間約2,500万人の乗降客があり、V・プレミアリーグ開幕戦、ファイナルを開催した東京体育館に程近い、JR代々木駅に電飾看板を設置(2016年7月1日～2017年4月30日)。Vリーグの認知度向上に繋がりました。

#### □羽田空港国内線ターミナルフューチャービジョンでのプロモーション映像放送

年間約6,200万人の乗降客を誇る羽田空港国内線ターミナル内に計70箇所設置されている羽田フューチャービジョンにおいて、『V・プレミアリーグファイナルとVリーグオールスター告知映像(15秒)』と『Vリーグ×DAZN告知映像(15秒)』の放映(2017年2月15日～3月26日)を行いました。

#### □全日空国際線機内ビデオプログラムでの放映

バレーボールトップリーグ50周年アニバーサリーパートナーである全日本空輸株式会社のご協力により、全日空国際線機内のビデオプログラムで、V・プレミアリーグのプロモーション映像を放映いたしました(2017年4月～7月『2016/17V・プレミアリーグチーム紹介<男女別/各60分>』)。引続き2017年8月～9月『2016/17V・プレミアリーグ総集編<男女別/各45分>』を放映予定です。

## (7) 社会貢献活動／アンチ・ドーピング推進活動

### ① 日本骨髄バンク支援活動

Vリーグ機構では、社会貢献活動の一環として、2006/07 シーズンより日本骨髄バンクへの支援活動を行ってきました。

2016/17 シーズンも開幕から全国各地のV・プレミアリーグ男女大会、V・チャレンジリーグ I、II 男女大会の試合会場で、日本骨髄バンクのドナー登録を呼びかけるチラシ、各チームロゴのシールの配布やコートサイドにバナー、のぼり、横断幕などを設置し、骨髄バンクの普及啓蒙活動とドナー登録を呼びかけました。

また、2017年3月17、18、19日のファイナルの会場では、選手による募金活動を行い、集まった募金総額 89,910 円はすべて公益財団法人日本骨髄バンクに寄付させていただきました。

### ② アンチ・ドーピング推進活動の実施

2014/15 シーズンより、Vリーグ機構と公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構 (JADA) は、アンチ・ドーピングの推進ならびにメッセージ発信の協同展開を決定し、今シーズンで 3 シーズン目を迎えました。

2016/17 シーズンにバレーボール国内トップリーグ創設から 50 周年という節目の年を迎えたVリーグは、この半世紀に亘る歴史を次世代に繋ぎ、バレーボールがより多くの皆様から愛される競技となる為に、フェアプレーの精神やスポーツの価値を護る事の重要性を再認識しています。また JADA は、2020 年の東京オリンピック・パラリンピックを踏まえ、スポーツの価値を護る事に直結するアンチ・ドーピング活動の普及・啓発を積極的に推進しております。

協同展開としてシーズン中には「BE THE REAL CHAMPION」と「Play True」というメッセージを表現したバナーをV・プレミアリーグの全会場にて掲出いたしました。

## (8) 普及活動

### ① V・明日夢(みらい)プロジェクト

VリーガーOB/OG と共に、バレーボールの普及・発展のため、全国各地でバレーボール教室や講演会、学校訪問などを中心に活動を行っている「V・明日夢(みらい)プロジェクト」も今年で4年目を迎えました。

2016 年度は、全国 32 会場でバレーボール教室を行い、Vリーグ期間中は、日清製粉グループとのタイアップ企画を全国 15 会場で行いました。更にゼビオグループとのタイアップ企画を 18 会場で開催し、合計 65 会場／5,814 名の皆さんと出会うことが出来ました。また東京都日野市との定期的な交流など様々な普及活動を実施しました。

#### □「V・明日夢プロジェクト」バレーボール教室

全国 32 会場で行われたバレーボール教室は、ビジネスブレイン太田昭和協賛、セイカスポーツクラブや各市の主催で行われ、小中高生など延べ 4,039 名が、講師は延べ 95 名が参加しました。

#### □日清製粉グループ presents V・明日夢プロジェクト

V・プレミアリーグの協賛社である日清製粉グループのご協力の下、2016/17V・プレミアリーグの開催に合わせて開催地の子供たちを対象としたバレーボール教室を全国 15 会場で開催しました。小中学生延べ 1,279 名、講師延べ 30 名が参加しました。

□スーパースポーツゼビオ presents V・明日夢プロジェクト

ゼビオグループのご支援のもと、ゼビオ店舗内におけるスポーツ体験施設「スポーツパーク」にて実施する『バレーボール体験レッスン』を9回、全国の店舗近隣の体育館で行う『バレーボールクリニック』を9回の計18回実施いたしました。小学生延べ496名、講師延べ18名が参加しました。

□日野第一・第二中学校女子バレーボール部 with V・明日夢プロジェクト

東京都日野市からの依頼を受け、V・明日夢プロジェクトでは2016年7月～2017年1月までの期間、日野第一中学校への部活動指導15回行いました。2017年4月からは2018年2月までに日野第二中学校への部活動指導20回行うことになっています。

②2016Vリーグジュニア選手権大会

Vリーグ機構では、バレーボール人口減少への対策として、また未来のVリーグ選手を数多く輩出するため、Vリーグチームのジュニアチームの創設ならびに育成促進に取り組み、その一環として、2015年度よりVリーグジュニア選手権大会の開催をスターとしました。第2回目となった今年度は、現役Vリーガー選手を大会役員とし、点示・ラインジャッジなどの補佐を行いながら、ジュニア選手にアドバイスをを行うことで、Vリーグ選手の意識向上と、ジュニア選手のモチベーションアップに繋げるなど、第1回大会よりも更に充実した内容になりました。

□2016Vリーグジュニア選手権大会

2016年8月27日、28日に、神戸市立中央体育館(兵庫県神戸市)にてVリーグ男子チームのジュニア11チームと、神戸市の中学校男子で構成されるクラブチームの計12チームで開催しました。

(9)研修会・委員会活動

①プレーヤーズミーティング

「2016Vリーグジュニア選手権大会」に大会役員として参加したVリーグの現役選手が一堂に会して「Vリーグプレーヤーズミーティング」を開催しました。

Vリーグチーム(準加盟含む)から37名(37チーム)が参加し、ジュニア選手権大会では補助役員のほか、ジュニアチームの選手達にアドバイスをしたり、表彰式で入賞チームに対してプレゼンターとしてメダル授与を行いました。座学ではコンプライアンス等の講演やJURYと共に昨シーズンの振り返りを行いました。

開催日 2016年8月27日(土)13:00～28日(日)16:30

会場 神戸市立中央体育館(兵庫県神戸市)

出席対象者 Vリーグ各チーム代表選手

②2016/17Vリーグ開催地・チーム合同会議

開催地・チーム合同会議はVリーグの大会に際して、そのシーズンの大会運営に関する最終確認を行う会議として毎年実施しています。今年度はVリーグ機構直轄大会として開催した2015/16 V・プレミアリーグファイナル6京都会場の増客事例発表も行われました。

開催日 2016年7月23日(土)11:00～17:00

会場 TOC五反田メッセ(東京都品川区)

出席対象者 開催地責任者、チーム関係者、Vリーグ機構関係者 等

③JURY会議・実行支援部会議・レフェリークリニック

2016/17 シーズンの運用の重要事項を確認するJURY会議並びに実行支援部会議を開催した



ほか、2日目には全チームの監督とJURY、Vリーグ特別審判員が一堂に会し、2016/17シーズンで適用するルールの確認等を行う、レフェリークリニックを開催しました。特に実技では、初めて採用するチャレンジシステムについて運用の確認をしっかりと行いました。

開催日 2016年8月20日(土)9:00～21日(日)17:00

会場 サントリー研修センター夢たまご、NEC玉川事業所(神奈川県川崎市)

出席対象者 JURY会議…JURY 8/20(土)9:00～18:30

実行支援部会議…実行支援部 8/20(土)13:15～16:10

レフェリークリニック…JURY、Vリーグ特別審判員、Vリーグ各チーム監督

8/21(日)9:00～17:00

#### ④各種委員会活動

Vリーグ機構の委員会は、理事会・運営会議・幹事会等のVリーグ機構主要会議により発議発案された課題や問題など、主にVリーグ機構運営上の重要問題に関して会長が諮問するテーマについて、理事・チーム代表・事務局・外部有識者などが委員となり、研究内容・方向性・一定の結論などを運営会議ならびに運営幹事会で報告・提案や理事会・会長に答申する役割を担っています。

主要な小委員会として、「コンプライアンス委員会」、「組合せ委員会」、「V50周年イベント委員会」、「V50周年イベント実行委員会」、「技術情報委員会」、「V・チャレンジリーグ改革委員会」などがあります。今年度は、新たにスーパーリーグ構想を打立て、2018/19シーズン開始に向けた「スーパーリーグ準備委員会」がスタートしました。

#### ◆スーパーリーグ構想

日本のバレーボールを取り巻く現状は、「国際競技力の低下」、「競技人口の減少」、「ホームゲームの少なさによる企業メリットの低下」等、非常に厳しい状況下にあります。これを打破し、「Vリーグ並びにバレーボールの価値を更に高めていく」ために、『世界一のバレーボールリーグ』、『日本のトップアーナスポーツ』を目指して、『チームが主役となり、ファンを楽しませ、会場を盛り上げていく』ことが必須となります。これらを実現しないと次の50年はないとの危機感から「スーパーリーグ構想」として、2016年9月に公表し、V・プレミアリーグ、V・チャレンジリーグの各チームと「スーパーリーグ準備委員会」の中で議論を重ね、各都道府県バレーボール協会にも理解を求めて現在に至っています。今後も継続して、2018/19シーズン開始を目指して準備してまいります。

#### ⑤JVIMSの開発・運用

公益財団法人日本バレーボール協会と国内競技の技術統計システムとして共同開発したJVIMS (Japan Volleyball Information Management System)は運用2年目を迎えました。このシステムは、スパイク、ブロック、サーブ、サーブレシーブの4種類のプレーを判定員が判定し、パソコンにその結果を入力し、公式記録としてその試合の帳票並びに個人記録を集計しています。

2016/17シーズンでは、全国開催地バレーボール協会のJVIMSを統括するリーダーを「JVIMSテクニカルスーパーバイザー」と位置づけ、全国研修会を開催して、開催地協会のJVIMS担当者とその仕様の共有と運用をさせています。また、DAZNの配信に合わせて、JVIMSのデータを提供するツールを作り放送に反映していただきました。開発第2段階として、サイド入力による「ディグ(スパイクレシーブ)」「セット(トスアップ)」のシステム開発並びにV・ファイナルステージではタブレットを使った判定テストを行いました。2017/18シーズンも継続開発してまいります。

#### (10) 助成金

独立行政法人日本スポーツ振興センターより、我が国における国際競技力の向上を期すための国の助成金制度「競技強化支援事業助成金(国庫基金)」(2003年度～)および「スポーツ振興くじ助成金」(2011年度～)の交付を受けています。今年度については、両助成金で 50,071 千円の交付を受け、マネジメント機能強化、研修会やV・プレミアリーグ活性化、V・チャレンジリーグの強化育成・活性化に活用しました。今年度までの交付累計受入額は393.6百万円に達しています。

今後とも制度の主旨に沿った有効活用を心がけ、改善改革に努め、組織基盤の強化を図り、バレーボール界の普及・発展に邁進してまいります。

#### (11) 協賛金

今シーズンもV・プレミアリーグに対して、従来からの協賛頂いている企業に加え、今期は50周年記念イベントへの協賛も含め、より新たに数社の企業より協賛を頂くことができました。

協賛いただきました各企業の皆様と、お世話になりました株式会社電通に厚く御礼申し上げます。

#### (12) その他

チャレンジリーグ I 女子に属している「仙台ベルフィーユ」の財務状況の悪化が顕著となり、Vリーグ機構の規約に則り6月に退社勧告を行った。

2017/18 シーズンがスタートし、国内リーグ 50 周年から新たに 100 周年を目指した 51 年目として、さらに 2020 年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向け、バレーボール界も益々進化・発展し続ける必要があります。

Vリーグ機構としましては、主催大会の一層の活性化に努め、魅力あるリーグ運営に努めてまいります。

法人設立時に掲げた 5 つのビジョンの実現に向け、より開かれた組織運営と事業活動を継続して取り組むとともに、公益財団法人日本バレーボール協会をはじめ、都道府県バレーボール協会他関係諸団体との協力関係についてもより一層の緊密化を図り、社員各位の期待に応えてまいります。

社員の皆様におかれましては、引き続き格別のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

### 3. 社員一覧

\*社員名、チーム名は2017年6月30日現在（順不同）

社員名	チーム名	区分	基金の口数	基金の額（円）
公益財団法人日本バレーボール協会			12	6,000,000
株式会社ウォーク	岡山シーガルズ	女子	1	500,000
サントリーホールディングス株式会社	サントリーサンバーズ	男子	1	500,000
株式会社デンソー	デンソーエアリービーズ	女子	1	500,000
東レ株式会社	東レアローズ	男子	1	500,000
	東レアローズ	女子	1	500,000
豊田合成株式会社	豊田合成トレフェルサ	男子	1	500,000
日本たばこ産業株式会社	JTサンダーズ	男子	1	500,000
	JTマーヴェラス	女子	1	500,000
日本電気株式会社	NECレッドロケッツ	女子	1	500,000
久光製薬株式会社	久光製薬スプリングス	女子	1	500,000
日立オートモティブシステムズ株式会社	日立リヴァーレ	女子	1	500,000
株式会社ブレイザーズスポーツクラブ	堺ブレイザーズ	男子	1	500,000
パナソニック株式会社	パナソニックパンサーズ	男子	1	500,000
一般社団法人上尾中央医科グループ協議会	上尾メディックス	女子	1	500,000
株式会社大野石油店	大野石油広島オイラーズ	女子	1	500,000
近畿クラブ	近畿クラブスフィード	男子	1	500,000
警視庁特科車両隊	警視庁フォートファイターズ	男子	1	500,000
株式会社ジェイテクト	ジェイテクトSTINGS	男子	1	500,000
医療法人青雲白鷺会三好内科・循環器科医院	大分三好ヴァイセアドラー	男子	1	500,000
大同特殊鋼株式会社	大同特殊鋼レッドスター	男子	1	500,000
一般社団法人つくばユナイテッドサンガイア	つくばユナイテッドSun GAIA	男子	1	500,000
医療法人社団天宣会	柏エンゼルクロス	女子	1	500,000
東京フットボールクラブ株式会社	FC東京	男子	1	500,000
トヨタ自動車株式会社	トヨタ自動車サンホークス	男子	1	500,000
	トヨタ自動車ヴァルキューレ	女子	1	500,000
トヨタ車体株式会社	トヨタ車体クインシーズ	女子	1	500,000
東京ヴェルディ1969フットボールクラブ株式会社	東京ヴェルディ	男子	1	500,000
富士通株式会社	富士通カワサキレッドスピリッツ	男子	1	500,000
KUROBEアクアフェアリーズ	KUROBEアクアフェアリーズ	女子	1	500,000
株式会社PFU	PFUブルーキャッツ	女子	1	500,000
NPO法人阪神バレーボールコミュニティ	兵庫デルフィーノ	男子	1	500,000
特定非営利活動法人仙台ベルフィーユ	仙台ベルフィーユ	女子	1	500,000
株式会社きんでん	きんでんトリニティーブリッツ	男子	1	500,000
東京トヨペット株式会社	東京トヨペットグリーンスパークル	男子	1	500,000
株式会社熊本サービスセンター	フォレストリーヴズ熊本	女子	1	500,000
グリーン・サポート・システムズ株式会社	GSS東京サンビームズ	女子	1	500,000
ぎふ農業協同組合	JAぎふリオレーナ	女子	1	500,000
NPO法人アザレア・バレーボール振興会	埼玉アザレア	男子	1	500,000
一般社団法人VC長野クリエイトスポーツ	VC長野トライデンツ	男子	1	500,000
合計	(37団体) (39チーム)		51	25,500,000

## 4. 役員一覧

2017年6月30日現在

代表理事 (会長)	しまおか けんじ 嶋岡 健治	1949年(昭和24年)5月9日生 第10期理事(副会長) 第11期代表理事会長 公益財団法人日本バレーボール協会 副会長
理事 (副会長)	みよし とおる 三好 徹	1947年(昭和22年)4月15日生 第2期～第11期理事 三好総合法律事務所 所長
理事	はやし たかひこ 林 孝彦	1959年(昭和34年)8月1日生 第6期～第11期理事 公益財団法人日本バレーボール協会 会長代行(代表理事)・事務局長
理事	かやしま あきら 萱嶋 章	1957年(昭和32年)10月4日生 第8期～第11期理事 久光製薬(株)執行役員 鳥栖工場厚生部 部長 久光製薬スプリングス 部長
理事	まつおか ひろたか 松岡 宏高	1970年(昭和45年)1月22日生 第10期～第11期理事 早稲田大学 教授
理事	おき たかお 沖 隆夫	1978年(昭和53年)5月1日生 一般社団法人日本バレーボールリーグ機構 事務局長
理事	くりうざ わじゅんいち 栗生澤淳一	1965年(昭和40年)2月25日生 日本たばこ産業(株)中国支社 男子バレーボール部 調査役 JTサンダース ゼネラルマネージャー
理事	ゼッターランド、 ヨーコ、カリン	1969年(昭和44年)3月24日生 有限会社オフィスブロンズ 取締役社長 2020東京オリンピック・パラリンピック組織委員会 理事
理事	ながた まさと 永田 将人	1958年(昭和33年)10月29日生 (株)デンソー西尾・善明製作所長 デンソーエアリービーズ 部長
理事	にしかわ ともゆき 西川 友之	1947年(昭和22年)9月7日生 金沢学院大学 人間健康学部教授 KUROBEアクアフェアリーズ 副部長
理事	はやの ようじ 早野 容司	1960年(昭和35年)3月3日生 第6期～第11期監事 (株)ジェイテクト営業本部 東日本支社 支社長 ジェイテクトSTINGS ゼネラルマネージャー
理事	やまもと みちひこ 山本 道彦	1966年(昭和41年)9月1日生 富士通(株)プロダクト事業推進本部人事部シニアマネージャー 富士通カワサキレッドスピリッツ ゼネラルマネージャー兼総監督
理事	みずたに たかよし 水谷 孝義	1949年(昭和24年)3月12日生 公益財団法人日本バレーボール協会 審判規則委員会 委員長
監事	やまのかわこうじ 山ノ川孝二	1953年(昭和28年)1月7日生 第8期～第9期理事 第11期監事 クラリオン(株) 取締役 日立リヴァーレ 顧問
監事	やまの はるお 山野 春雄	1964年(昭和39年)4月5日生 東レ(株)三島工場 事務部長 東レアローズ男子 部長